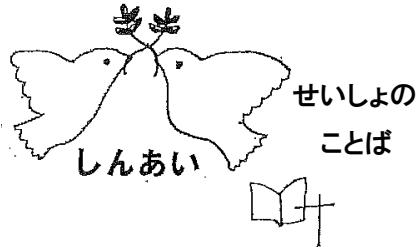


2025年度 2月 2日

オリーブ通信



わたしがあなたがたを愛したように、互いに
愛し合いなさい

ヨハネによる福音書15章12節
神愛保育園

「2月を迎えて」

暦の上ではそろそろ立春を迎えます。今年度も残すところ2か月となりました。1月下旬には来年度の新入園児が決定し、幼児クラスではクラス移動を行うなど、新しい学年に向けて少しづつ準備を進めています。とくに年長クラスは、就学後の生活を見据えた保育を意識して取り組んでおり、園内には少しづつ新しい季節への期待感が漂い始めています。

この1月も、子どもたちは様々な経験を通して心豊かな時間を過ごしました。中旬には、近隣のあゆみ保育園からお正月の行事に招いていただき、獅子舞や大型かるた大会を楽しみました。同じ地域の保育園同士ということもあり、子どもたちが一人でも多く顔見知りのお友だちをつくれるよう、今後も公園でのおにごっこやドッジボールなど、交流の機会を大切に持っていく予定です。また、下旬には深川警察署のおまわりさんをお招きし、幼児クラスを対象に「交通安全教室」を行いました。交通ルールのビデオを見た後、年長さんは実際に外へ出て横断歩道を渡る練習に挑戦しました。普段の散歩では友だちと楽しく話しながら歩く子どもたちも、この日ばかりは真剣そのもの。しっかりと自分の目で安全を確かめてから横断歩道を渡る姿がとても印象的で、その成長ぶりに頼もしさを感じました。

さらに、父母会の皆さんのお力添えにより、劇団風の子による『いろといろ』を全園児で観劇しました。身近な「色」というテーマは1・2歳クラスの子どもたちにも分かりやすく、劇中の問いかけに一生懸命言葉を返す姿や、美しい歌声のハーモニーにうつとりと耳を傾けながら体を揺らして楽しむ姿が見られました。このような貴重な感性を育む機会をいただき、心より感謝申し上げます。

2月は寒さが一段と厳しい季節ですが、子どもたちは日々の遊びの中で、心も体も大きく成長しています。新しい環境への期待や不安を抱えながらも、友だちや職員との関わりを通して一歩ずつ次のステップへと進んでいます。年度末に向けて行事や活動が続きますが、一つひとつの経験が子どもたちの自信となり、春からの新しい生活につながっていくよう、職員一同丁寧に寄り添ってまいります。

神愛保育園 主任 大須賀 靖子



深川警察のおまわりさん
に見守られながら横
断歩道をわたりました



劇団風の子さん
『いろといろ』観劇の様子

子どもたちも前のめ
りで觀していました



食事だより



私の好きなメニュー【その⑯】

※職員の好きな食事のメニューを聞きました！

☆ 神愛歴 9年 ☆

変わり西京焼き…ほんのり甘い西京味噌と鮭が美味しかったです。身がしっとりしていて、口の中でとろける柔らかさがごはんにとても合い、食欲をそそります。その他の魚料理の味付けも本当に美味です。

(材料) 生鮭 白味噌 砂糖 本みりん マヨネーズ 白ごま

(作り方)

- ① 白味噌、砂糖、本みりん、マヨネーズ、白ごまを混ぜ合わせる。
- ② ①に生鮭を浸ける。
- ③ オーブンまたはフライパンで焼き、火が通って焦げ目がついたら出来上がり！

(ポイント) マヨネーズの量をお好みによって調節してください。保育園では、隠し味程度の量です。鮭は皮なしの物を使用しています。

★2・3月は年長のリクエストメニューを取り入れています。

写真を掲示しますので、是非ご覧ください

ひだまり

～地域の親子と園児の交流～

2月に入り、寒さも厳しくなってきましたね。ひだまりに遊びに来る親子も、冷たい風に頬と鼻を真っ赤にして、「寒かった～！」と言いながら部屋に入ってきます。

ちゅうりっぷ組が散歩帰りにひだまりに立ち寄ってくれました。ちょうど来園していた1歳児と2歳児の子どもたちは、お兄さんとお姉さんが遊びに来てくれて大喜び！！順番にタッチをしてつかの間の交流を楽しみました。



父母会主催の観劇会「劇団風の子 いろといろ」にひだまり親子が参加しました。
今後も園児との交流の機会を持ちたいと思います。

保健だより 2026年 2月



1月は去年から続き、晴れて乾燥の続く天候でした。2月は一年の中で最も寒くなる時期ですが、暖冬との予報もでています。子ども達は活動量が多いため、大人よりも1枚少ない服装が適しています。またお散歩用の上着も、あまり厚地だと動きづらかったりもします。動きやすい上着をご用意ください。



【ぶくぶくうがい】

1月13日、2歳児クラスでうがい（ぶくぶくうがい）のお話をしました。食後にうがいをすることで、虫歯予防を目的としたものです。子どもたちはお話のあと、小さなほっぺを膨らませながら練習をしてくれました。正しくうがいが出来るというより、うがいをする習慣を身に付けることを目指しての指導です。ご家庭でもうがいをする機会を作り、ご家族で楽しみながらお試しください。

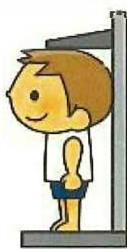


【黄砂と花粉】

黄砂・花粉と言うと3月～5月にピークを迎えるのですが、1月中旬関東で観測されました。晴れて日中の気温が高くなったことも理由と言われています。アレルギーのある方は、マスクや眼鏡などはサイズの合ったものを使用し、洗濯物などは予報の出た日には部屋干しするなど対策が必要です。乳幼児にはアレルギーの発生は少ないとされていましたが、2歳前後で診断される場合もあります。3歳以下の乳児には、マスクの使用が難しいことから、洋服を帰宅時に払う、手洗いをする等の対策が必要になります。

【毎月の計測】

園では毎月身長・体重を計測します。幼児クラスでは上旬に、3歳以下の乳児クラスでは上旬～中旬に計測することが多いです。（計測日に欠席している場合には別日に計測します）はぐくむから確認していただけます。お子さんの成長の記録として、年度末（3月）これまでの計測値をグラフにしてお配りします。身長と体重のバランスを見て頂くとともに、お子さんの一年



の成長を確認なさって下さい。毎月の計測値に関して、疑問に思われることや質問がありましたら、担任を通じてお声掛け下さい。



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2026年1月8日（木） 天気 晴れ時々曇り たんぽぽ組（1歳児）

「みんなで食べるとおいしいね！」

今日は小名木川へ散歩に行った。最近給食では保育者と同じテーブルを囲んで食事をするようになった。最初は、保育者と一緒に食べることを喜ぶというよりも不思議そうにする姿があったが、慣れてくると保育者の食べ方を真似たり、食べるタイミングを合わせたりする姿が見られるようになった。Aはパンをひとかけ持って前に座っている保育者に「パン！」と見せてくれた。同じことをAにすると、Aは喜んでパンを食べていた。野菜が苦手な子どもも、「コーン見つけた！一緒にたべる人！」と保育者が言うと、一口食べてみることもできた。今、子どもたちに必要な関わり方は、食事介助ではなく、安心する人と一緒に食べて楽しさを味わうことだと改めて感じた。

たんぽぽ組での生活も、残り2か月となりました。進級したばかりの頃は、手づかみ食べが中心で、食具を使うことが難しく、保育者の手助けを必要としていた子どもたちも、今では食べこぼしが減り、少しずつ自分の力で食べ進められるようになってきました。こうした成長に合わせ、最近は保育者も子どもたちと同じテーブルを囲み、一緒に食事を楽しむようにしています。初めのうちは「どうして一緒に食べているのかな」と不思議そうにしていた子どもたちも、次第に保育者の食べ方を真似したり、同じものを口に運んだりする姿が見られるようになりました。信頼できる大人がそばにいることで、安心して食事に向かえるのだと感じています。

1歳児は周りのお友だちの存在に目が向き始める時期もあり、「みんなと一緒に頑張れる」という気持ちが育つ大切なタイミングです。食卓を囲む時間は、ただ食べるだけではなく、“食べる意欲を育てる場”であり、“食の文化に触れる機会”でもあります。「おいしいね」と言葉を交わしながら食べることでコミュニケーションが広がり、食事の楽しさを味わう豊かな時間となるよう関わっていきたいと思います。



2026年1月23日(金) 天気 はれ ちゅうりっぷ組&ひまわり組

「負けて・・くやしいな」

今日は相撲大会だった。ひまわり組の子たちは昨日の相撲観戦が余韻で残っていたようで、相撲大会も盛り上がっていた（相撲を見たことで、塩をまいておなかを叩く姿をまねたり・・・）。特に年中のAは今まで負けても悔しい感情などを見せることがなかったが、相撲でBに負けて悔し涙を見ていた。年長のCもDに負けて同じく悔し涙を見ていた。昨日の相撲を見て感じたことがあったようだ。今まで感情を表に出さない子たちが思い思いの感情を出し始め、ひまわり組の子どもにとって良い経験になっているようだ。また、ちゅうりっぷの子どもたちも、相撲大会を楽しんでいた。その後の「ちゃんこを食べる会」も3歳児のEは5歳児Fと隣で座り、おしゃべりをしながら食事を楽しむ姿や5歳児のFがお世話をする姿が見られて、縦割りグループでの会食の時間も時には必要だと思った。

幼児クラスと一緒に参加した相撲大会の日の日誌です。その前日に、ひまわり組さんは、国技館で相撲観戦をしました。相撲観戦の興奮が冷めやらぬ中での「ひまわり組」の子どもたちは、昨日見た力士のしぐさや、観覧する人の応援をまねたりして、すっかり、小さな力士になりきった姿で大会を盛り上げてくれました。

この日誌で、最も印象的だったのは、子どもたちA、Cの「感情の表出」です。年中児のAは、勝敗に対して淡々としている姿が今まで見られていましたが、今日は、Bに負けたことで目に涙を浮かべて悔しさをあらわしていました。また、年長児のCもDにやぶれ、大粒の涙を流しています。

幼児期において「悔しい」と感じる心は、物事に対して「主体的に、本氣で取り組んだ」からこそ生まれる心の成長を伴う感情です。ひまわり組の子どもたちは、昨日の観戦で本物の勝負の厳しさや何かを感じ取ったのでしょうか。きっと、それが、心のスイッチを入れたのでしょうか。そして、負けを受け入れ、涙を流す経験は、次のステップのための意欲や他者への思いやりを育てる良い機会となります。

その後、「ちゃんこを食べる会」という、幼児の縦割りのグループで一緒にちゃんこを食べました。異年齢での会食は、園では、行事の中でたびたび開催していますが、特にこの進級する前の時期の会食は、職員にとっても、子どもたちも一年の成長を感じる場となっています。

異年齢での会食は、年下の子どもにとっては、「あんな風になりたい」というモデル（憧れ）を見つける場となり、年長児等年上の子どもたちにとっては、自分の力で誰かを助ける自己有用感（自信）を育していく場となります。家族や同学年の枠を超えたこうした「縦割り」のつながりは、子どもたちの社会性を豊かに広げてくれることになります。1月の最終週から、3歳児はひまわり組クラスにクラス移動が始まりました。年中児と一緒に生活が始まることになります。子どもたちの成長が、ますます大きくなりますように。



～絵本紹介～

暦の上的一年で最も寒さが厳しくなる頃とされる大寒を過ぎ、冬の終わりと春の訪れを少しづつ感じるこの季節に楽しんでもらえるような絵本を紹介します。

① 「てぶくろ」

絵：エウゲーニ・M・レチャフ 訳：内田莉莎子 出版社：福音館書店



雪の森の中をおじいさんが散歩していく、片方の“てぶくろ”を落としてしまいます。その“てぶくろ”を最初に見つけた小ねずみが「ここをぼくのおうちにしよう」とお話はスタートします。その後次々にやってくる動物たちの間で「いれて」「どうぞ」が繰り返され、その度に“てぶくろ”は形を変えていきます。最後はおじいさんといぬが“てぶくろ”を探しに来ます。結末は…

② 「はなをくんくん」

文：ルース・クラウス 絵：マーク・シーモント 訳：きじま はじめ



お話は雪が降る冬の森から始まります。野ねずみやくま、小さなかたつむりなどが静かに冬眠中。目を覚ました動物たちは鼻をくんくんさせながら雪の中を駆け出し、雪の中にお花が咲いているのを見つけて、笑ったり踊ったりして喜び合います。最後のページで色が加わることで、春の訪れを象徴的に表現されています。

③ 「ふたをぱかっ」

作・絵：新井 洋行 出版社：KADOKAWA



タイトルそのままに「ふたをぱかっ」と開ける仕掛けの絵本です。繰り返しなべ、箱、冷蔵庫の中と「ふた」を開けるたびに楽しい驚きが待っています。「なべからなんだかいい匂い!!あれ何かな?」「なべなべ なあに? ふたをぱかっ」あれ? ふたが開けられるの?! 「ふた」を開けることも子どもが喜ぶポイントになるのでは…

